

見出しの七間に「左」を挿し、音はカタカナ、訓はひらがなで出してあります。訓の中の赤い字で示した部分は送りがなです。音訓は、常用漢字表にあるものを、表に出されている順に示しました。

②見出し漢字の「おん」と

この辞典は、小学校・中学校で学習する常用漢字一九四五字(そのうち小学校は一〇〇六字)を見出しとしました。見出しの活字は教科書体で示してあります。見出し漢字は、石井方式^{いせいしき}によって字形上のまとまりと、意味上のまとまりの両方を考えながら配列してあります。配列の順序は(13)と(22)ページの本文もくじに出ています。見出し漢字の引き方は、一つでも読み方を知っているときは音訓さくいで、総画数が数えられるならば総画さくいで、小学校で初めて習う学年がわかれば学年別さくいで引いて下さい。部首がわかれば本文もくじも役立ちます。

①見出し漢字について

この辞典の使い方

この辞典の使い方

⑦総

⑥漢字の成り立ちと漢字の古い形(小篆など)


⑤漢字の筆順と書く上でのポイント

④漢字の画数

③小学校で学習する漢字の教わる学年

②見出し漢字の音と訓

①見出し漢字



⑧(8)ページに番号順にそれぞれの説明があります。

⑨見出し漢字の音と訓

⑩見出し漢字の成り立ちと漢字の古い形(小篆など)

⑪見出し漢字を使った熟語例の読み方

⑫漢字学習に役立つ参考文献

⑬和

ワ・オ

やわらかく・やわらげる・なごむ・なごや

なりたち 輪の意味の禾(こ)とひとの会(あ)の形声字。輪が豊かに収束して十分に口に入ることを表した字。昔、争いは食料から起こった。食が豊かであれば、人の心は和み和らぐ。和む・和らぐこと。

⑭和の用法

和む。和らぐ。仲直りする。和解。①仲直りする。②訴訟で、当事者が互いに譲り合って争いをやめること。和平。③仲直りして平和になること。④和平協定。和と戦争をやめて、平和を回復すること。⑤調和と乗約。和やか。穏やか。⑥性質が穏やかでおとなしいこと。⑦気候が温暖で穏やかなこと。⑧声や韻・調子を合わせる。⑨音。二つ以上の音を同時に鳴らして出る音。⑩数学で二つ以上の数を加えたもの。⑪日本のこと。日本式の。和服。日本の衣服。着物。⑫和・尚・漢和・飽和。⑬和・大和・大和絵・大和魂。

⑮和の成り立ち

なりたち 和では、その漢字の成り立ちを詳しく、わかりやすく解説してあります。その漢字がどのようなようにできたのか、なぜそのような読み方になったのかなど、できるだけ詳しく、理解できるようにしてあります。餘の部分には中国

見出し漢字の左に学年の入っている漢字と、入っていない漢字があります。学年の入っている漢字は小学校で習う漢字で、初めて習う学年を示しました。学年の入っていない漢字は中学校で習う漢字です。

⑥漢字の成り立ち

筆順の上にある数字は、その漢字の総画数を表しています。筆順は順序よく、わかりやすく書いてあります。漢字を書くやすく、きれいに書くために筆順を覚えてほしいと思います。また、筆順の中にその漢字を書く上でのポイントを一か所示してあります。正しく字を書くための要点ですので参考にして下さい。

③漢字の学年表示

漢字の成り立ち

④漢字の画数・筆順と書く上でのポイントについて

筆順の上にある数字は、その漢字の総画数を表しています。筆順は順序よく、わかりやすく書いてあります。漢字を書くやすく、きれいに書くために筆順を覚えてほしいと思います。また、筆順の中にその漢字を書く上でのポイントを一か所示してあります。正しく字を書くための要点ですので参考にして下さい。

⑧漢字の意味と熟語

⑨熟語の使い方

⑩熟語の意味が二つある場合

⑪見出し漢字を使った熟語例の読み方

⑫漢字学習に役立つ参考文献

の古い字の形(小篆(ひん))を載せました。小篆は、中国の秦の大臣李斯(し)が趙高(ちやう)らち大篆(たいたん)を改作したものと伝えられるものです。成り立ちの解説を読みながら小篆を見ると理解が深まると思います。

また、解説の中に「象形・指事・会意・形声・会意形声・転注・仮借(かじ)」という漢字の作り方の言葉が出てきますが、これらについては、(9)～(12)ページの「漢字の成り立ちについて」の説明にあります。

7 絵について

全ページに美しい絵がたくさんあります。絵の中にある主として四角い線で囲んであるものは小篆(ひん)です(⑥を参照)。絵はなるべく大きく載せて、その漢字をしっかりと覚え込むように印象深く、しかも楽しみながら学習できるようにしました。漢字を見ただけですぐに忘れてしまいうようなことを絵によってさらに漢字の意味が感じとれるようにかいてあります。

8 漢字の意味と熟語

「いみとじゆく」欄は、見出し漢字の意味と、見出し漢字のつく熟語を意味ごとに分け、わかりやすく説明してあります。

熟語の意味が二つ以上ある場合は、①②…とし、意味ごとに説明しました。

11 見出し漢字を用いた熟語例の読み方

「よみかた」の欄には、見出し漢字を用いた熟語の例を載せてあります。一つ一つの漢字には、多くの読みをもつものが多くありますが、ここではできる限り見出し漢字の「読み」と「読み」を用いて熟語の例を示しました。配列の方法は、見出し漢字が一字めにくるものを前に、二字め以下にくるものを後に、それぞれ五十音順に並べてあります。二つの読み方ができる熟語には二つともふりがながついていきます。この欄には熟語の説明としてとりあげなかつたものを載せています。

12 漢字学習に役立つ「さんこう」ミニ知識

「さんこう」欄は、見出し漢字の解説を補うために設けました。常用漢字表には「付表」があり、いわゆる出て字や熟字訓など、主として一字一字の音訓として挙げにくいものを語の形で掲げていますが、これらを「特別なよみかた」としてできるだけ載せてあります。また、見出し漢字を用いたことわざ、読みが同じで意味が違う漢字、誤りやすい使い方の注意など、役立つことがらを説明してあります。

漢字は他の字と結びついて多くの熟語をつくっています。漢字の意味が理解できれば、熟語となった場合でも、その熟語の意味のおおよそその見当がつかます。したがって漢字の意味を知ることが、熟語を理解する上で重要です。

熟語は、学校で習う熟語をはじめ、重要な語を選んで載せてあります。漢字を覚えるための辞典としては数多くの熟語例をとりあげました。

9 10 いみとじゆく」欄の内容について

熟語の説明を読んですぐに意味が理解できるように、わかりやすく熟語を説明してありますが、その中には、意味は理解できても、どのような使い方をするのかわかりにくいものもあります。また、その用例を示されることにより、熟語の意味がつかめる場合もあります。したがって、熟語の意味を理解する上で必要なものには「例」や「用例」を入れて、熟語の使い方がわかるようにしました。また、熟語と反対の意味をもつ語(反対語)を「対」として載せました。さらに、熟語に関連して他のことがらを説明する場合は「*印」をつけて説明しました。

熟語の読み方については、一つの読み方しかできないものが多いのですが、中には、二通りの読み方ができるものがあります。これらについては、その読み方を熟語の右に二通り示してあります。

「ミニ知識」欄は、見出し漢字とかわる百科的なことから解説しました。その漢字にまつわる知っておくと便利な知識が載っています。

13 その他使い方で知っておきたいこと

●この辞典の本文中のそれぞれの解説部分に初めて出てくる漢字にはふりがなをつけてありますので、だれにでも読めるようになっています。ふりがなのつけ方は、常用漢字には漢字の七割につけてありますが、常用漢字以外の漢字、または「常用漢字表」に掲げられていない音訓の場合は()で漢字の下につけてあります。例 伐(は)り

●漢字学習をする上で参考になるようなことを「記事」としてまとめてあるのが「漢字学習コーナー」です。「文字の発明」・「漢字の音のいろいろ」・「漢字は難しくない」など所々に設けてあります。

●常用漢字以外の漢字で、人名に使うことができる漢字の一覧表が穴ページにあります。人名によく使われるが、常用漢字の中に入っていない字を調べる場合に見て下さい。

●⑫で説明しました常用漢字の「付表」を穴ページに載せてあります。どのような語が「特別なよみかた」になっているかが一覽してわかりますので参考にして下さい。